



No.68

市民ネットワークちば

発行責任者 小西由希子

編集・発行 市民ネットワークちば 〒260-0013 千葉市中央区中央 4-10-11 TEL043-201-2551 FAX043-223-7701



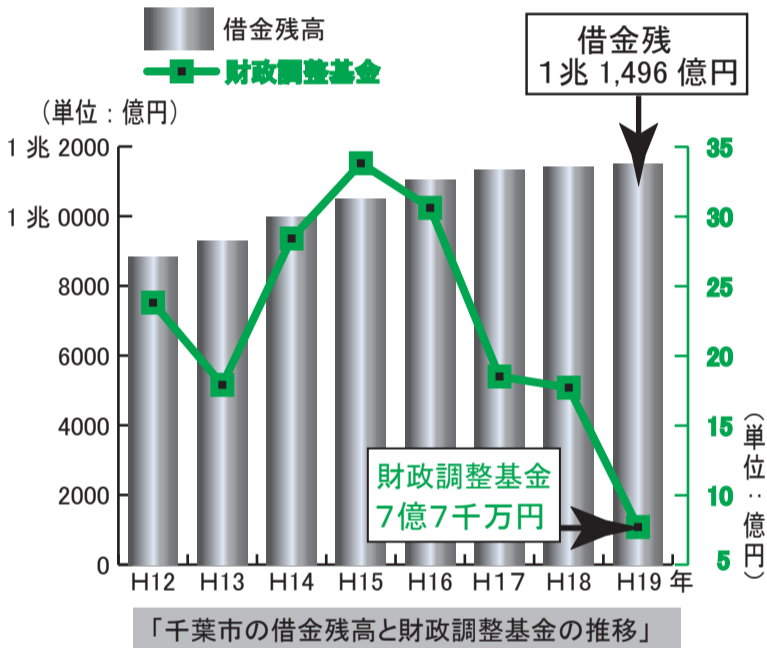
私たちの代理人として議会に送り出しています
左から、長谷川ひろ美（花見川区）福谷章子（緑区）
山田京子（若葉区）常賀かづ子（稲毛区）
小西由希子（中央区）湯浅美和子（美浜区）
（県議・川本幸立（緑区）は2面に）

置きみやげは重すぎる 検証

突き進んだ公共事業で火の車の財政

千葉市の借金残高（利息は除く）は、平成12年には8,824億円だったものが、平成19年には1兆1,496億円に膨れ上がりました。一方、いざという時の貯蓄である財政調整基金は23億8千万円であったものが、7億7千万円に減少しています。きぼーる建設や千葉中央港土地地区画整理事業、蘇我特定地区整備、新港横戸町線など、普通建設事業費は、この10年間で8,469億円に上ります。

鶴岡市長が誕生した平成13年は、経済対策の名の下に、国主導の財政出動の真只中でしたが、それ以降も、就任以前に策定された長期ビジョンを見直すことはありませんでした。誰のための開発だったのか、私たちの税金は適正に使われたのか、納税者の意思が反映されたのか、大いに疑問が残ります。



鶴岡市政の8年

今年6月、千葉市長選挙が行われますが、鶴岡市長は立派な後継者も育ててきたとして不出馬を表明しました。

出馬の意向を示している前副市長は、現市長と同じ官僚出身で、平成4年に建設省（現国土交通省）から千葉市の都市局長に派遣され、蘇我副都心整備では、JFE・都市機構の間に立って力を発揮した人。前松井市長から数えても既に8期32年、同じコースをたどった市長によつて国や企業の方を向いた千葉市政が続いています。

焼却ごみの削減や乳幼児期の子育て支援に関してなど評価できるところはあっても、財政立て直しを求める市民意見には耳を貸しませんでした。ここに、鶴岡市政の8年間を検証し、私たち市民が望む市長と千葉市政のあり方を探ります。

置き去りにされた福祉

小泉改革は、社会保障費、年2,200億円削減を打ち出しました。その結果、介護保険法・障害者自立支援法など、利用者負担は増大し、高齢者や障害者の生活も厳しいものになりましたが、千葉市は国の基準どおりの運用にとどまりました。法律の不備を自治体がカバーすることで、負担を少しでも減らすことができたはずですが。

また、保育所の耐震対策の必要性が明らかにされながら長年にわたって放置し、保育所の待機児童の解消も進んでいません。それらの必要経費は大型公共事業の見直しで、捻出されるはずのものです。

中身の無い市民参加条例

「しっかり聞いて、じっくり実行」という市長公約の象徴だった区民懇話会は、その機能を発揮することなく、平成18年第3期をもって休止となりました。区民懇話会にかわり「市民参加懇話会」を設置し、市民参加にかかわる条例作りを行うから、というのですが、内実は、区民懇話会へきちんとした情報提供がなされず、その中で頑張って提案しても、行政側に大胆に市政に反映させる度量もなく、「テーマとシステム」があいまいな市民の声のガス抜きでしかなかったとも言えます。

市に「市民参加、協働とは何か」というイメージがないまま策定された「市民参加及び協働にかかわる条例」は、これからの千葉市の市民参加を促進させる内容ではありません。市民の力を信じ、市民にいかにも市政を担ってもらおうか、という根本的な思想がない限り、せっかく市民参加で策定された地域福祉計画も、「絵にかいた餅」となってしまう。



「12月議会の市民ネット代表質問と市長答弁」

バス交通より モルールの延伸を優先

財政が逼迫する中、総工費176億円と言われるモルールの延伸の着工予定も次々先送りされています。しかし、市民意見を新たに問うこともなく、延伸中止の選択は未だなされません。一方、市民の日常の足として大切なバス交通は、補助金が打ち切られて区役所バスが減便されるなど、陸の孤島のような地域もできています。

ずさんな徴税事務！ 真相は闇の中

市議会議員 山田京子

その結果わかったのは、「驚くべきひどいシステムだった」と監査人に言わせるほどの滞納繰越額の年度間不一致や、税務統計と滞納集計データとの不一致。これらについても再調査はなく、誰が指示したかなど、真相は闇に葬られました。今議会の補正議案にあつたように、来年度から開始される住民税の年金からの天引き等、市民には一円の猶予もないというのに、市の内部の億単位の改ざんには目をつぶり、断固とした態度もなく、市長の責任感覚のなさにはあきれるばかりです。市民の皆さんには、署名を集めたあの時の怒りを忘れないでほしいと切に思います。

平成16年に起きた花沢元県議の滞納税不正免除事件は、千葉市の税務管理のずさんさを露呈しました。千葉市独自の税免除制度「特別処分」は法的根拠が無く、いつ、誰によって、どういう目的で始められたかは、結局明らかになりませんでした。

怒った市民は、「千葉市納税者市民の会」を立ち上げ、たった1カ月間に22,648筆もの署名を集め、個別外部監査を実現させました。